

国語科学習指導案

令和3年10月6日(水) 第5校時 3年

- 1 単元名 「芭蕉が桐生の町にやってきたら、どこで、どんな句を詠むだろう」
 (「おくのほそ道」 現代の国語3 三省堂)

2 教材観

(1) 学習指導要領上の位置付け

【知識及び技能】

歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。

<(3)我が国の言語文化に関する事項ア>

【思考力・判断力・表現力等】

文章を読んで考えを広げたり深めたりして人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

<C読むこと(1)エ>

(2) 単元の価値

本教材は、松尾芭蕉の旅に対する思いと、訪れた土地での歴史を踏まえた深い洞察と鋭い感覚とが記されており、歴史的背景を基に自然の悠久さ、人生のはかなさ、人間の営みのすばらしさを、作者の気持ちに寄り添いながら学習できる。

また、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して、文章に表れている松尾芭蕉のものの見方や考え方を、現代の自分たちの考えと比べることにより、考えを広げたり深めたりすることができ、社会生活のさまざまな事象について、より広い視野をもって自分の意見を形成できると考える。

以上のことから「おくのほそ道」をじっくりと読み深めることで、古典の世界に親しみ、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことが期待できる。

(3) 今後の学習への活用

「故郷」で、「人間」と「自然」、「昔」と「現代」の人の考えを比較する際、本単元における学習活動を活用し、作品に表れているものの見方や考え方について、状況や歴史的背景を踏まえて自分の考えがもてるようにする。

3 生徒の実態および指導方針(27名)

(1) 既習の学習内容や活動

まず、<(3)我が国の言語文化に関する事項ア>については、特に、2年次の「平家物語」において歴史的背景を踏まえ、現代語訳や語注などを手がかりに作品を読み深めた。

次に、<C読むこと(1)エ> (「考えの形成」)に関連して2年次の「枕草子」「徒然草」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けることで、自分の考えを広げたり深めたりした。

また、関連する学習活動として、3年次の第3単元、「俳句の世界」では、俳句のきまりや表現の特徴を基に、俳句について理解を深めるとともに、語句に注意して情景や心情を捉え、俳句を読み味わう活動に取り組んだ。

(2) 本単元に関わる生徒の実態

【知識及び技能】

古典、また歴史に対して苦手意識をもっている生徒が多いため、文章の背景となっている時代の様子や作者が置かれていた状況などの理解は不十分である。そこで、古典の世界に親しむために必要な最小限の知識が得られるよう指導していく必要がある。

【思考・判断・表現】

多くの種類の文章を読む機会が少ないため、自分の考えを広めたり深めたりして自分の意見をもつことのできる生徒は多くない。しかし、文章に表れているものの見方や考え方に対して、感想をもつことはできる。感想から出発して他者の考えに触れさせることで、自分の考えを広げたり深めたりできるよう指導していく必要がある。

【主体的に取り組む態度】

自分の考えを学習課題に沿って表現しようとする様子は見られる。しかし単に「～できた。」「～捉えられた。」だけになってしまい、具体的に「どんなことを学んだのか。」が欠如してしまうことが多い。根拠を示しながら考えたことを進んで具体的に伝え合うことができるよう指導していく必要がある。

(3) 指導方針

- ・単元の課題を設定して意識させることで、芭蕉の思いを考えさせ、寄り添わせ、俳句作りに生かす。
- ・語注や辞書を活用することで、言葉の意味を確認しながら内容を読み取らせる。
- ・1人1台のタブレット端末を活用し、自分の考えをまとめたり、他の生徒の考えと比べたりすることで自分の考えが深まるようにする。
- ・「鞆堂」を模した簡易な模型を使うことで、人工物が残されたことについての読み取りが難しい生徒にも実際に見て分かるようにする。

4 単元の目標

- (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
[知識及び技能] (3)ア
- (2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。
[思考力・判断力・表現力等] C(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)言語文化 ア)	「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 (C読むこと(1)エ)	進んで作者のものの見方や考え方について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

6 指導計画 (全6時間予定)

○：記録に残す評価

・：指導に生かす評価

学習課程	時間	○ねらい ・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点
つかむ	1	○歴史的背景や表現、文体の特徴に着目させる。 ・旅行に行った経験を話し合う。 ・学習の見通しをもつ。 【単元の課題】 芭蕉が桐生の町にやってきたら、どこで、どんな俳句を詠むだろう。	・芭蕉が生きた時代だけでなく、鎌倉時代や中国の歴史にも触れていく。 ・旅行に行った経験について問いかけ、旅行に行く前と行った後では、どのような変化があったかを考えさせる。 ・単元の課題を設定することで学習の見通しをもたせる。	・【態度】① <u>観察・プリント</u> ・課題について考えたことを進んで伝え合おうとしていることを確認する。

つ か む	2	<p>○芭蕉の旅に対する思いや行動を捉えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句に込められた芭蕉の思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉は、「旅」に対してどのような思いを抱いていたのか、現代の旅と比較しながらまとめさせる。 ・芭蕉が、なぜ「旅」を「人生」にたとえているかという理由を、冒頭部分と俳句を基に考えさせる。 ・句の意味を解釈するだけでなく、どんな心情が込められているかを芭蕉の旅支度や旅に対する思いを基に考えさせる。 	<p>○【知・技】① <u>プリント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の時代と現代の旅とを比較しながら書いているかを確認する。
追 究 す る	3 4 本時 5	<p>○芭蕉が見ている風景から心情を読み取らせ、芭蕉の思いに寄り添わせながら、「人間の営み」と「自然」に対する自分の意見をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「春望」を引用した理由を考える。 ・俳句に込められた芭蕉の心情を、キーワードを基にまとめる。 <p>○「人間の営み」と「自然」に対する芭蕉の考え方について自分の考えを広げられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとの意見を比べ、その異同からさらに考える。 <p>○芭蕉が「立石寺」で見たもの、感じたことを捉えさせ、自分の考えを深められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の旅に対する思いから人間や自然について感じたことを短い文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉が見ている風景をキーワードごとに分け、比較させることで芭蕉の思いを考えられるようにする。 ・地の文、脚注、辞書などを参考に、「春望」と「平泉」の風景の共通点について考えさせる。 ・キーワードを分類させ、芭蕉が見えているの、見えていないのものから、「人間の営み」は「はかなく」、「自然」は「悠久」であることに気付かせる。 ・タブレット(ミライシード・オクリンク)を活用し、個人の意見と班の意見をまとめさせる。 ・簡易な模型を用いることで、分かりづらいところを視覚的に理解しやすくさせる。 ・俳句を詠んだ心情を本文に沿って考えさせることで、俳句に込められた心情の違いを捉えさせる。 ・「殊に清閑な地なり」「岩上の…音聞こえず。」などの表現に着目させ、立石寺の様子を考えさせる。 ・今までの旅の苦難が立石寺の静寂さで心が清らかに昇華されていくことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【思・判・表】① <u>プリント</u> ・キーワードの分類を基に「人間の営み」と「自然」を、対比的に捉えているかを確認する。 <p>○【思・判・表】② <u>プリント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間や自然に対する芭蕉の考えについて自分の考えを根拠を明らかにして書いているかを確認する。 <p>○【思・判・表】③ <u>プリント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の旅への思いを踏まえ、人間や社会について根拠を明らかにしてまとめているかを確認する。

ま と め る	6	<p>○これまでの学習を振り返り芭蕉の思いや考えに沿って俳句を作らせることで、考えたことを進んで伝え合えるようにする。</p> <p>・単元の課題を考え、俳句を作る。</p>	<p>・文章中の俳句に込められた心情を振り返らせることで、芭蕉が桐生の町にやってきたら、どこで、どんな様子を詠むことがふさわしいかを考えさせる。</p>	<p>○【態度】② プリント</p> <p>・作者のものを見方を考えながら俳句を作り、進んで伝え合おうとしているかを確認する。</p>
------------------	---	---	--	---

7 本時

(1) ねらい

「人間の営み」と「自然」に対する芭蕉の考え方について自分の考えを広げられるようにする。

(2) 準備

タブレット

(3) 展開 (本時：6時間中の4時間目)

<p>○学習活動</p> <p>・予想される生徒の反応</p>	<p>指導上の留意点及び支援・評価</p> <p>◎努力を要する生徒への支援 ◇評価項目</p>
<p>【単元の課題】芭蕉が桐生の町にやってきたら、どこで、どんな俳句を詠むだろう。</p>	
<p>1. 前時の学習内容を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>○単元の課題を想起させる。</p>	<p>・「人間の営み」は「はかない」、「自然」は「悠久」であることを確認し、黒板に提示する。</p> <p>・俳句に込められた芭蕉の思いを読み取らせるため、前時と同じようにグルーピングをすることを伝える。</p>
<p>【本時のめあて】俳句が作られた背景を知り、作者が句に込めた思いを考えよう。</p>	
<p>2. 「光堂」で「芭蕉」が見た事実や思いを個で読み取る。(20分)</p> <p>○俳句に込められた、芭蕉の思いを「喜・怒・哀・楽」の4つの気持ちから一つ選び、その理由を書く。</p> <p>○平泉の後半部分の文章から、抽出された言葉をタブレットを活用しグルーピングする。</p> <p>・【生徒のグルーピングの予想】</p> <p>(人工物・あるもの) 経堂 三将の像 光堂 三代の棺 三尊の仏</p> <p>(人工物・ないもの) 七宝 玉の扉 金の柱</p> <p>3. 全体で交流し、光堂で芭蕉が見た事実や思いについて新たな気付きをもつ。(15分)</p> <p>○文章の構造や「しばらく千歳の記念」になったことに着目して考えを交流する。</p> <p>・グルーピングのしかたが違うな。</p> <p>・文章を読み落としてしまったかな。</p> <p>・人工物はなくなってしまうという先入観があった。</p>	<p>タブレット(ミライシード・オクリンク)を活用</p> <p>・「七宝」「玉の扉」「金の柱」は「頽廢空虚」になったであろうと思わせることで、あえて芭蕉の「哀」と近づけさせる。</p> <p>◎解釈や意味は確認できる程度でよいので、深入りはさせない。</p> <p>・「人間の営み」は「はかない」という平泉の前半部分にあてはまらないことに気付かせる。</p> <p>・改めて、俳句に込められた芭蕉の思いを「喜・怒・哀・楽」から選ばせ、芭蕉の気持ちを書かせる。</p> <p>◎芭蕉が見た「光堂」が昔と変わらない姿であったことを確認させるために、簡易な模型を使って気付かせる。</p>

4. もう一度、芭蕉の気持ちを考えてその理由をまとめ、振り返りをする。(10分)

○俳句に込められた芭蕉の思いを再考し、本時の学習を振り返る。

- ・はじめは、「哀」と考えていたが、人工物が人間の手によって残っていて「喜」になった。
- ・「人間の営みははかない」と思っていたが、いろいろな工夫で残すことができうれしい気持ちになったことがわかった。

◎前時の「哀」の気持ちになりそうだった芭蕉の心情が、今日の授業を通して、どんな気持ちになったのかについて振り返らせる。

◇人間や自然に対する芭蕉の考えについて自分の考えを根拠を明らかにして書いている。

【思・判・表】②ワークシートへの記入・発表

8 板書計画

おくの細道 松尾芭蕉

【単元の課題】

芭蕉が桐生の町にやってきましたら、どこで、どんな俳句を詠むだろう

【人間の営み】ははかない。

【自然】は悠久である。

(今日のめあて)

・俳句が作られた背景を知り、作者が句に込めた思いを考えよう。

(一)芭蕉の気持ちはどれだろう。

喜 怒 哀 楽

(二)グループピングしてみよう。

(三)考えを交流しよう。

(四)改めて芭蕉の気持ちを考えよう。